

旧大乘院庭園の概要（要約）：

大乘院は最初、奈良で最も重要な仏教寺院である興福寺の門跡寺院として、1087年に創建されました。大乘院は1180年に全焼し、1451年の一揆の際に再び焼失しました。その後、中世日本で有名な作庭家であった善阿弥が、池や橋、植物や木々を用いて造園を行いました。改修された庭は、日本で最も美しい庭園のひとつとされました。

明治時代(1868-1912)に大乘院は閉鎖され、荒廃しました。1920年代までに敷地は奈良ホテルの一部となり、テニスコートやパターゴルフ場に転用されました。しかし、第二次世界大戦後、庭の復元が行われ、庭の歴史やジオラマ、見取り図、興福寺の貴重な遺物などを展示した「名勝大乘院庭園文化館」が設置されました。この歴史的な庭園は年間を通して一般に開放されています。

旧大乘院庭園の歴史：

大乘院は最初、近隣にある興福寺の門跡寺院として、1087年に創建されました。興福寺は有力な藤原氏の氏寺で、奈良で最も重要な仏教寺院のひとつでした。大乘寺の門跡は天皇家や身分の高い公家の者のみで、その多くは藤原家出身でした。平安時代(794-1195)の後半、大乘院は栄えていましたが、1180年に全焼したのち、現在の場所に再建されました。その後、乱世の室町時代(1336-1573)、1451年の徳政一揆の際に、寺と庭園は再び破壊されました。

大乘院の20番目の高僧・尋尊(1430-1508)は、日本で最も有名な作庭家であった善阿弥に造園を依頼。善阿弥は、庭を池や橋、植物や木々を融合して再設計しました。改修後の庭園は日本の名園のひとつに数えられ、足利義政(1436-1490)のような多くの武将が、参詣のためだけでなく寺の有名な庭を鑑賞するために大乘院を訪れました。

明治時代(1868-1912)、政府は仏教を外国の危険な影響を日本に及ぼすものとみなし、大乘院を含む多くの寺院が閉鎖され、補修もされなくなりました。1920年代までに大乘院の敷地は奈良ホ

テルの一部となり、旧庭園はテニスコートやパターゴルフ場に転用されたのです。しかし、第二次世界大戦後、庭の完全な復元がはじまりました。庭の歴史やジオラマ、見取り図、寺の遺物などを保存し、展示するため、庭の入口に「名勝大乘院庭園文化館」が建てられました。数十年にわたる研究、発掘、復元の末、2010 年についに庭園は一般公開されました。現在、来訪者は年間を通して敷地内を散策し、この歴史ある庭園の四季ごとの美しさを楽しめます。春の桜、夏の緑豊かな風景、秋の見事な紅葉、冬の雪景色などが見どころです。